

24:1 地とそれに満ちているもの、世界とその中に住むものは【主】のものである。
24:2 まことに主は、海に地の基を据え、また、もろもろの川の上に、それを築き上げられた。
24:3 だれが、【主】の山に登りえようか。だれが、その聖なる所に立ちえようか。
24:4 手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人。
24:5 その人は【主】から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。
24:6 これこそ、神を求める者の一族、あなたの御顔を慕い求める人々、ヤコブである。 セラ
24:7 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王が入って来られる。
24:8 栄光の王とは、だれか。強く、力ある【主】。戦いに力ある【主】。
24:9 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王が入って来られる。
24:10 その栄光の王とはだれか。万軍の【主】。これぞ、栄光の王。 セラ

はじめに

この詩篇はダビデが契約の箱をエルサレムに戻した時のものであると大半の聖書注解者が考えています。その話は、サムエル記第二 6 章と歴代誌第一 15 : 1-16 : 3 に記されています。

旧約聖書や契約の箱についてよく知らない方々のために、少し説明しておきましょう。

契約の箱は、純金の金箱が施された小さな木製の箱です。

中には、十戒が納められていました。十戒とは、神の選民に神が与えられた掟です。その掟が石版に記されてきました。また、マナと呼ばれるパンが入っていました。神が民をエジプトの奴隷生活から救いだされた後、約束の地に入るまでの間、民は 40 年間を荒野で過ごしましたが、その間ずっと神が奇跡によって与えてくださった食べ物がマナです。

箱には、金のふたがありました。そこには、羽根を広げるふたりの御使いの像がありました。

これは、「贖いのふた」と呼ばれていました。

契約の箱だけが、幕屋（後に神殿）の至聖所内部に置くことを許されたものです。

この箱は、神ご自身のご臨在そのものの象徴となりました。

サムエル第二 6 : 1-15

6:1 ダビデは再びイスラエルの精鋭三万をことごとく集めた。

6:2 ダビデはユダのバアラから神の箱を運び上ろうとして、自分につくすべての民とともに出かけた。神の箱は、ケルビムの上に座しておられる万軍の【主】の名で呼ばれている。

6:3 彼らは、神の箱を、新しい車に乗せて、丘の上にあるアビナダブの家から運び出した。アビナダブの子、ウザとアフヨが新しい車を御していた。

6:4 丘の上にあるアビナダブの家からそれを神の箱とともに運び出したとき、アフヨは箱の前を歩いていた。

6:5 ダビデとイスラエルの全家は歌を歌い、立琴、琴、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らして、【主】の前で、力の限り喜び踊った。

6:6 こうして彼らがナコンの打ち場まで来たとき、ウザは神の箱に手を伸ばして、それを押さえた。牛がそれをひっくり返しそうになったからである。

6:7 すると、【主】の怒りがウザに向かって燃え上がり、神は、その不敬の罪のために、彼をその場で打たれたので、彼は神の箱のかたわらのその場で死んだ。

6:8 ダビデの心は激した。ウザによる割りこみに【主】が怒りを発せられたからである。それで、その場所はペレツ・ウザと呼ばれた。今日もそうである。

6:9 その日ダビデは【主】を恐れて言った。「【主】の箱を、私のところにお迎えすることはできない。」

6:10 ダビデは【主】の箱を彼のところ、ダビデの町に移したくなかったので、ガテ人オベデ・エドムの家にそれを回した。

6:11 こうして、【主】の箱はガテ人オベデ・エドムの家に三か月とどまった。【主】はオベデ・エドムと彼の全家を祝福された。

6:12 【主】が神の箱のことで、オベデ・エドムの家と彼に属するすべてのものを祝福された、ということがダビデ王に知らされた。そこでダビデは行って、喜びをもって神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町へ運び上った。

- 6:13 【主】の箱をかつぐ者たちが六歩進んだとき、ダビデは肥えた牛をいけにえとしてささげた。
6:14 ダビデは、【主】の前で、力の限り踊った。ダビデは亜麻布のエポデをまとっていた。
6:15 ダビデとイスラエルの全家は、歓声をあげ、角笛を鳴らして、【主】の箱を運び上った。

詩篇 24 篇とサムエル記第二で、「万軍の主」という単語が神の呼び名として使われています。この詩篇はおそらく、ダビデの敵によって盗まれた契約の箱をエルサレムへ運び戻すときに、歌われたと考えられます。

この詩篇は、「交唱詩篇」と言われています。

歌い手が二組以上に分かれて、指揮者が問いかけ、会衆がそれに応答する形で歌われます。

これは、ヘロデの神殿で毎週日曜日に歌われた詩篇であり、多くの人は、しゅろの日曜日のエルサレム入城と結びつけます。

世界各地にある聖公会の教会では、イースターの 40 日後に祝われる昇天日にこの詩篇を読みます。今年の昇天日は、5 月 30 日木曜日になります。

詩篇 24 篇は、神が民に与えられた 3 つの特権を示します。

1. 神の被造物の中で暮らす特権。(1-2 節)

まず詩篇の著者が語るのは、聖書の神がこの世にあるものすべての創造主であり、所有者であられるということです。

動物、昆虫、鳥、そして人間すべてです。

詩篇の著者の言葉は、イザヤ書 45 : 18 でも繰り返されています。

イザヤ書 45 : 18

45:18 天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てた方、これを茫漠としたものに創造せず、人の住みかにこれを形造った方、まことに、この【主】がこう仰せられる。「わたしが【主】である。ほかにはいない。

賢い人なら、自然界の美とその神秘的に造られた様を認めるでしょう。

たいていの医師は、人体の構造の不思議を認めます。

現代の職業で、職に就くまでの学習、訓練、研修がもっとも長い職業は、医師、獣医、樹医です。それは、人体をはじめとする被造物の構造やデザインが複雑だからです。

一生かけて被造物について学んだとしても、地上で神が造られたものについてすべてを明らかにすることはできません。

現在、アリだけでも 1 万 2000 種いると言われます。アリは、自分たちの体重の 20 倍もの重量を持ち上げることができます。これを人間に置き換えてみると、9 歳くらいの子どもの普通乗用車を持ち上げられることになります。

女王アリの寿命は長く、一生で生む卵は何百万にもものぼります。

生涯かけて世界中のアリの研究をしたとしても、全種の一割ほどしか見つけられないでしょう。

賢くなりたいなら、アリについて考えなさいと神が言われたのも納得できます。

箴言 6 : 6-8

6:6 なまけ者よ。蟻のところへ行き、そのやり方を見て、知恵を得よ。

6:7 蟻には首領もつかさも支配者もないが、

6:8 夏のうちに食物を確保し、刈り入れ時に食糧を集める。

現代人の問題は、被造物や人体について肯定的に受け止めていても、聖書の神をその創造主として認めようとしなないことです。

知性あふれる人々が、この世を偶然の産物だと信じているのが、私には信じがたいことです。

神を創造主であり、所有者であると認めることについては、特に大きな抵抗があります。一般的に、人間は創造主に対して反抗的なのです。

一方、神は被造物の中にご自身を現されると語っておられます。

ローマ 1 : 20

1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

あなたがクリスチャンなら、神が創られた素晴らしい世界を見て神をたたえるのは簡単でしょう。24 篇 1 節は、聖書の神がこの地球と地上のすべてのものの創造主であり、所有者であると教えます。

私たちが自ら問うべきなのは、「神は、私自身の創造主であり、所有者だろうか。私は、そのことを自分の生き方において認めようとしているだろうか」ということです。

さらに、「私はみことばに則って、神に従って生き、神を礼拝することを求めているだろうか」と問うべきです。

これらの問いには、一人一人が自分で答えを出さなくてはなりません。そして、その答えが日々の生き方に反映されなくてはなりません。

ここで、スチュワート・バージェスという人が書いた本をお勧めします。

彼は、英国ケンブリッジ大学で工学設計を教えていました。今は、ブリストル大学で教えています。

お勧めしたい本は、「Hallmarks of Design」（「設計の太鼓判」邦訳はない）という本です。

この本の中で、バージェス氏は自然界における設計と美が意図されたものである証拠を検証します。

著者は、わかりやすい単語を使って、私たちの身近に生きる生き物の複雑さや美しさを説明します。

この本を 2 冊注文したので、近日中に教会の販売本カートに入る予定です。送料は私が負担しますので、一冊 1,000 円で販売する予定です。

クリスチャンにとっては、とても励みになる内容です。けれども、クリスチャンでない人にも、先入観を持たずに読めば、進化論が正しいとは二度と主張しなくなる内容です。

2. 贖いに現された神の恵みを体験できる特権。(3-6 節)

詩篇 15 篇は、この箇所と非常に似た内容です。

詩篇 15 篇

15:1 【主】よ。だれが、あなたの幕屋に宿るのでしょうか。だれが、あなたの聖なる山に住むのでしょうか。

15:2 正しく歩み、義を行い、心の中の真実を語る人。

15:3 その人は、舌をもってそしらず、友人に悪を行わず、隣人への非難を口にしない。

15:4 神に捨てられた人を、その目はさげすみ、【主】を恐れる者を尊ぶ。損になっても、立てた誓いは変えない。

15:5 金を貸しても利息を取らず、罪を犯さない人にそむいて、わいろを取らない。このように行う人は、決してゆるがされない。

このふたつの箇所はどちらも、人が神を礼拝するためにはさらに高い領域が要求されると教えます。これは、私たち自身の力で達することのできない領域です。

詩篇 2 : 6 は、神の御子が天のシオンにある御座に座っておられると語ります。

シオンとは、エルサレムの別名です。

契約の箱は、地上のシオン（エルサレム）にある神の御座です。

契約の箱を運ぶレビ人は、きよめの儀式をまず通らなければなりません。

4 節にある「きよい手」とは、正しい行いを指します。

イザヤ書 1 : 15-16,18

1:15 あなたがたが手を差し伸べて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを増し加えても、聞くことはない。あなたがたの手は血まみれだ。

1:16 洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。

1:18 「さあ、来たれ。論じ合おう」と【主】は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。

「きよらかな心」は、敬虔な人格と純粹な動機を指します。

マタイ 5 : 8

5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

詩篇 24 : 4 は、うそを誓った人は神の御前に出られないと語ります。

欺きは非常に強力で、イエスの再臨に近づくにつれ、その力を増していくでしょう。

神だけが、人の心の動機を本当に知っておられるお方です。

神は、動機を探られます。

日本では、まったく心のこもっていないプレゼントを贈ることがあります。

何かの口利きをしてもらうための賄賂のような贈り物もあります。

一方、純粹な動機で心のこもったプレゼントを贈ることもできます。

神は、私たちの心の動機を探られます。

欺き誓うとは、法廷での偽証を指します。

たましいをむなしいことに向けない、というのはこの詩篇が書かれた当時、大きな課題でした。

その時代、聖書の神を礼拝していない人は、ほぼ皆、偶像礼拝者でした。

今では、偶像を拜んでいなくても、心に偶像を作らないように注意する必要があります。

心の偶像とは、私たちの生活の中心となり、神を後ろに追いやろうとするものです。

それは、仕事、家族、プライド、立場、将来の夢や希望など、さまざまです。

聖書の神が人生で最優先になっていないなら、最優先にしているものが偶像です。

そういうことについて、考える必要があります。心に偶像があると、クリスチャンとしての成長が阻まれるからです。

では、詩篇の著者の問いに話を戻しましょう。

「だれが、【主】の山に登りえようか。だれが、その聖なる所に立ちえようか。」

正直なところ、100%のきよさという神の基準に達することのできる人はいません。

ローマ 3 : 23 には、人はみな罪を犯して、神の栄誉を受けることができないとあります。

善行も敬虔な人格も私たちが救うことはできません。

神の御前に出られる唯一の方法は、神の御子イエス・キリストを信じる信仰を持つことです。

私たちは、自らの罪を悔い改め、イエスを信じなくてはなりません。

イエス・キリストだけが、神の御前に出る資格のあるお方です。

私たちがイエスを信じ、イエスが私たちの罪のために十字架で死んで成し遂げてくださった御業を信じると、神は私たちに賜物を与えてくださいます。

これは、賜物であって、報いではありません。

ローマ 3 : 21-4 : 17

3:21 しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。

3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

3:24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。

3:25 神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。

3:26 それは、今の時にご自身の義を現すためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。

3:27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行いの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。

3:28 人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。

3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人にとっても神ではないのでしょうか。確かに神は、異邦人にとっても、神です。

3:30 神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。

3:31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです。

4:1 それでは、肉による私たちの父祖アブラハムの場合は、どうでしょうか。

4:2 もしアブラハムが行いによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前では、そうではありません。

4:3 聖書は何と言っていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた」とあります。

4:4 働く者の場合に、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。

4:5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。

4:6 ダビデもまた、行いとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。

4:7 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。

4:8 主が罪を認めない人は幸いである。」

4:9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた」と言っていますが、

4:10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときにでしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。

4:11 彼は、割礼を受けていないとき信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じて義と認められるすべての人の父となり、

4:12 また割礼のある者の父となるためです。すなわち、割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。

4:13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいはまた、その子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰の義によったからです。

4:14 もし律法による者が相続人であるとするなら、信仰はむなしくなり、約束は無効になってしまいます。

4:15 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。

4:16 そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、アブラハムの信仰にならう人々にも保証されるためなのです。「わたしは、あなたをあらゆる国の人々の父とした」と書いてあるとおりに、アブラハムは私たちすべての者の父なのです。

4:17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。

皆さんに今日お尋ねします。あなたは、永遠のいのちという神の贈り物を受け取りましたか。もしまだなら、今日神の贈り物を受け取ることができます。古いのちを捨てる覚悟が必要ですが、「新しいいのち」をいただけます。

ルカ 9 : 23-27

9:23 イエスは、みなの方に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

9:24 自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。

9:25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありません。

9:26 もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのような人のことを恥とします。

9:27 しかし、わたしは真実をあなたがたに告げます。ここに立っている人々の中には、神の国を見るまでは、決して死を味わわない者たちがいます。」

3. 勝利者として神の栄光を祝える特権。(7-10 節)

著者はこの最後の個所で 5 回も、神のことを「栄光の王」と呼んでいます。イエス・キリストは大牧者であり、教会のかしらです。つまり、ここ OIC のかしらです。聖書は、いつの日かイエスが栄光を帯びて戻ってこられると教えます。そして、忠実なしもべひとりひとりに栄光の冠を授けてくださいます。

ペテロ第一 5 : 1-4

5:1 そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現れる栄光にあずかる者として、お勧めします。

5:2 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。

5:3 あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。

5:4 そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けます。

詩篇の著者が 7-10 節で同じことを繰り返し言っている点に注目しましょう。

著者が言っている内容と、その理由が大切です。

まず、この個所をもう一度読んでみましょう。

詩篇 24 : 7-10

24:7 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王が入って来られる。

24:8 栄光の王とは、だれか。強く、力ある【主】。戦いに力ある【主】。

24:9 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王が入って来られる。

24:10 その栄光の王とはだれか。万軍の【主】。これぞ、栄光の王。 セラ

この背景となる情景を考えましょう。エルサレムの門は外に向いて開きますが、レビ人たちがエルサレムに契約の箱を運び込むためには、門が大きく開かれていなくてはなりません。

城門は当時、あらゆる商売が営まれている場所でした。

つまり、町の重要な拠点だったのです。

ダビデは、神のご臨在が戻られるのを町全体が歓迎する必要がある、と言っているわけです。

それから著者は、「栄光の王とは、だれか。」と尋ねます。

その答えは、「強く、力ある【主】。戦いに力ある【主】。」です。

ここで考えなくてはならないのは、なぜエルサレムの門が 2 度登場するかです。

栄光の王とはイエス・キリストのことです。

イエスがイースターの一週間前となるしゅろの日曜日にエルサレムに入城されたとき、町全体がイエスを歓迎してたたえたわけではありませんでした。

しゅろの日曜日の朝に、この詩篇が神殿で歌われました。

しかし、その内容をナザレのイエス・キリストに当てはめることはしませんでした。

イエスをたたえるどころか、宗教指導者たちはイエスを排除しようと、十字架につけました。

けれども、イエスの死と復活によって、サタンと罪に対する戦いの勝利が勝ち取られたのです。

イエスは、ご自身の死と復活によってサタンを打ち負かされました。

イエスは天のシオンに戻られ、そこで勝利を得た万軍の主、栄光の王とされました。

この言葉が繰り返されているのは、イエス・キリストの再臨があるからです。

イエスは、再びこの地上に戻ってこられ、この世の軍勢と戦い、勝利を収められます。

そして、エルサレムを敵から救いだし、地上にご自身の王国を築かれます。

主の民は、エルサレムでこのお方を万軍の主、栄光の王としてお迎えします。

これはとても重要ですから、しっかりと聖書に根差している必要があります。

黙示録 19 : 11-16

19:11 また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。

19:12 その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。

19:13 その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。

19:14 天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。

19:15 この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。

19:16 その着物にも、ももにも、「王の王、主の主」という名が書かれていた。

ゼカリヤ書 14 : 1-9

14:1 見よ。【主】の日が来る。その日、あなたから分捕った物が、あなたの中で分けられる。

14:2 わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。町は取られ、家々は略奪され、婦女は犯される。町の半分は捕囚となつて出て行く。しかし、残りの民は町から断ち滅ぼされない。

14:3 【主】が出て来られる。決戦の日には戦うように、それらの国々と戦われる。

14:4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

14:5 山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、【主】が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。

14:6 その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。

14:7 これはただ一つの日であつて、これは【主】に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に、光がある。

14:8 その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。

14:9 【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる。

適用

再臨はまだ起こっていませんが、私たちは今、イエス・キリストを信じることによって、圧倒的な勝利者となることができます。

コリント第二 2 : 14

2:14 しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。

ローマ 8 : 31-39

8:31 では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。

8:33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。

8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。

8:35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

8:36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。

8:37 しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあつても、圧倒的な勝利者となるのです。

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、

8:39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

神の子である私たちは、3つの世界に属しています。

1. **被造物の世界。**神が創造された素晴らしい世界です。
2. **新しく造られた者の世界。**イエス・キリストを信じたときに、新しい世界の一員になります。

コリント第二 5 : 17

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

これは、霊の世界です。そこで、創造主なるお方と話し、このお方の子としての祝福を体験します。

3. 来たるべき世界。

黙示録 21 : 1-8

21:1 また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。

21:3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、
21:4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しきもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

21:5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」
また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」

21:6 また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。

21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

21:8 しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。」